

令和2年度 東久留米市立 久留米中学校 学校評価報告書

<p>学校教育目標</p> <p>平和で民主的な国家形成のため、社会連帯性と実践力に富んだ主体性のある個性豊かな社会人を育成する。</p> <p>○ 知性を高める ○ 心を豊かにする ○ 体を鍛える</p>	<p>教育ビジョン</p> <p>【目指す学校像】 ○一人一人に生きる力(確かな学力、豊かな人間性、健康と体力)をはくむ学校 ○社会的自立ができるよう、生徒一人一人の進路を実現できる学校 ○人権が守られ、保護者・生徒と教師の信頼関係が築かれている学校</p> <p>【目指す児童・生徒像】 ○対話を通して学び続ける生徒 ○根拠に基づいて自分の考えを表現できる生徒 ○未来を予測して計画を立てることができる生徒</p> <p>【目指す教師像】 ○1時間1時間の授業をデザインし、生徒の学力を伸ばす教師 ○人権感覚をもち生徒一人一人を大切にしている教師 ○生徒の可能性を信じ抜き、未来を開く教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p> <p>○互いを認め合える人間関係の中で教育活動を進めた。生徒のアンケートでは「いじめや偏見をゆるさない学校である」が89.1%の回答を得た。人権が守られる学校になりつつある。いじめの報告件数は10件であったが早期の発見ができた。</p> <p>○挨拶を生指導の重点にした。自分から挨拶をしていると回答した生徒は83.3%となり、昨年度より高い数値となった。</p> <p>○授業スタイルは、ここ数年で定着してきた。特別支援教育を必要とする生徒、保護者から評価をすする声が出ている。</p> <p>○定期考査期間の家庭学習は平均1時間以上が7.7%で定着に増えてきた。しかし、日常の家庭学習は64.4%と定着が課題である。学習・復習の基本的な学習ができるように各教科で指導を行っている。</p> <p>○障害者理解については、パラスポーツアスリートの講演会、体験活動によって理解が深まった。</p> <p>○教員の働き方改革については、定時退勤週間を設けることで帰宅しやすい状況が生まれた。職務の分担をさらにすすめるよう仕事はかたどるようになっていく。</p>	

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和4年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	四つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」		取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント		
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	人権教育の推進	人権が守られ、保護者、生徒と教師の信頼関係を築く	・自分の大切さと他人の大切さを考えた行動ができるようになる。 ・挨拶運動の定着	・2年生でハンセン病について学び、全生員の現地学習を行う。 ・2年生の全生徒で人権作文に取り組み。 ・互いを認め合い、学び合い、高め合う学習づくりを行う。 ・教員が100%生徒の名前を呼ぶときは、必ず敬称をつけて呼ぶ。 ・教師自ら進んで挨拶を行う。 ・教員の100%が生徒の名前に敬称をつけて呼んでいる。	・2年生の90%以上が人権作文を提出した。 ・生徒アンケートで「学級は自分の役割があり、安心して過ごせると答えた生徒が85%以上である」 ・生徒アンケートで「自分から挨拶を心掛けた生徒が全体の半数以上である」と答えた生徒が85%以上とする。	3	4	4	・今年度のコロナ禍のような学校全体が強いストレスにさらされた体験を生かし、困難に直面したときにも立ち直れる「レジリエンス」の力の育成、立場や環境の違いを認め合ったうえで学び合い、高め合える学校づくりを求めたい。 ・保護者の意見や教員アンケートにおける100%未満、未記入の件は重く、困り感のある生徒および家庭への適切な対応を求めたい。 ・コロナ禍において、感染者に対する差別が新たな社会問題となっている。改めて生徒一人一人を大切にしている教育の実践が重要になっている。 ・自己肯定感だけでなく自己有用感の醸成につなげてほしい。 ・学級に自分の役割があり安心して過ごせる場所になっていると多くの生徒が答えていた。そのうち学級づくりをし「大きく成長している生徒に感謝申し上げたい。まだまだ学級を許さずにはいられない。日々の感謝予防と対策をこれからもよろしくお願い致します。」 ・家にいる時間が増えているので、基本はご家庭のルール作りだと思いますが、学校のルールや安全な利用方法の周知をお願いしたいと思います。 ・新しい制服への切り替えで、保護者や生徒から様々な意見や要望が寄せられました。2年組には、全学年が同じ制服になりますので、気温や環境に応じたルール作りができてよいと思います。	・学校が生徒にとって安心・安全の場所であるためには、教職員の人権感覚を高め、指導の質をあげることが必要である。生徒の話をよく聞く、生徒の理解に努める、生徒が指導を受け入れる状態であるかを見極めるなど研修を行っていく。 ・生活指導の重点項目である「挨拶」を、教員から行い、挨拶のある学校づくりを行っていく。
2	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	教育相談体制の充実	生徒一人一人を大切にしている教育の実践	校内委員会の充実を図る	・生徒に関する「連絡・報告・相談」を日常的に行う。主任教諭、主幹教諭への報告を密にした。100%とする。 ・教員のアンケートで「生徒一人一人を大切にしている教育活動を行った」と100%とする。 ・年間保健活動との連携により家庭の支援を図る。 ・不登校の生徒に関する個別対応計画書を作成し、指導に役立てる。 ・校内委員会を定期的に年4回以上行う。	・生徒アンケートで「久留米中の先生は生徒を大切にしている」と感じる」を90%以上とする。	3	4	4	・引き続き、一人一人を大切にしている久留米中学校を目指していく。 ・校内委員会で、困り感のある生徒をアンテナを高くして発見し、生徒、保護者とよく話し合い、適切な対応を行っていく。	
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	いじめ防止といじめの早期発見、早期対応を行う	・いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	・年3回の生活アンケートの実施 ・1年生のスクールカウンセラーによる全員の確立 ・教員のアンケートで「いじめについて学級活動や道徳の授業に取り組みながら未然防止に努めた」と100%とする。 ・教員のアンケートで「後輩に暴言を吐く生徒を防止する活動の推進」	・生徒アンケートで「先生や自分のまわりの生徒との人間関係は良好である。」を90%以上とする。	3	4	4	・全教職員でいじめの早期発見、いじめのない学校づくりを推進する。 ・生徒会によるいじめ撲滅運動を、生徒が主体的にすすめるようにサポートしていく。	
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	授業スタイル・学びのスタイルの確立を図る	・授業スタイルの定着 ・書物や自己との対話を通して考え、自己の考えを伝え合うことで協働的に学び、学習活動を振り返る指導の流れを確立する。 ・学びの意欲を育てるため、評価方法を説明し、理解させる。	・生徒のアンケートで「先生は、めあてを示し、振り返りする授業を行っている」を90%以上とする。 ・生徒アンケートで「授業・評定の説明がわかりやすい」と感じる」を90%以上とする。 ・生徒アンケートで「学習に基づいて自分の考えをもっと言えた」と答えた生徒が70%以上とする。 ・教員のアンケートで「後輩に暴言を吐く生徒を防止する活動の推進」を100%とする。	4	3	3	・ICTの活用が遅れている。今後のコロナ禍対応でも、オンライン授業を家庭学習に生かせるような体制づくりを教員が理解し、適正に実施する。 ・主体的、対話的で深い学びとなる授業改善とともに、全生徒に配布されるタブレットを活用した授業ができるように教員の研修を深める。		
5	II 学力向上	確かな学力の育成	家庭学習の積極的な展開	家庭学習を主体的学びにつなげる	予習指導により主体的な学びにつなげる	・日常の教科指導で、予習の方法、内容を伝える。教員のアンケートで「予習の方法や課題を授業で示した」を100%とする。 ・臨時休業中に予習の課題を提示する。 ・校内研究主題として取り組む。 ・テスト前の1週間の家庭学習平均2時間以上に取り組む。 ・家庭学習を毎日する生徒を増加させる。	・生徒アンケートで「予習を心がけて授業を受けられるようになった」を60%以上とする。 ・生徒アンケートで「定期考査前1週間は平均2時間以上家庭学習に取り組んだ」と答えた生徒が70%以上とする。	3	2	2	・家庭学習が50%まで意識が高まってきた。さらに70%を目指し、学習の意欲を高める。 ・今年度はじめた朝学習の取り組みが、意欲につながっている。朝読書と併用してすすめていく。 ・テスト前に計画表は、生徒の意見を取り入れ、より使いやすなものにしていく。 ・教科指導の際に、予習・復習のアドバイスを行っていく。 ・学力の三要素である①基礎的・基本的な知識・技能②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等③主体的に取り組む態度、を身に付けさせる教材を工夫する。	
6	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	学校評価に基づく学校経営の継続的な改善	PDCAマネジメントサイクルによる組織機能の強化	授業評価・保護者アンケート・生徒アンケート、行事ごとの見直しアンケートの有効活用を行う。	・8月授業評価を行う。 ・8月授業評価、学力調査結果から授業改善推進プランを作成する。 ・行事ごとに関係する、次年度の計画を提案する。 ・12月保護者アンケート等学校評価を学校評議員により行う。	・保護者アンケートで、「久留米中学校は保護者の声を取り入れ学校運営が行われている」と70%とする。	4	3	3	・学校評価アンケートを学校経営に生かすよう保護者、地域の皆様と連携し、よりよい学校経営を目指す。	
7	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	発達の特長や難聴に関する理解を深め、共生社会を目指す	難聴通級ごたま学級、特別支援教室、発達特性のある生徒の理解を深める。発達特性のある生徒、難聴の生徒を前項上げて支援する。	・教員、生徒に向けた研修を通して難聴の理解を深め、自分とは異なる人を受け入れ、理解して行動できる」を90%以上とする。 ・「生徒アンケートで難聴教室、特別支援教室の理解を深め、自分とは異なる人を受け入れ、理解して行動できる」を90%以上とする。	4	4	4	・「誰も置き去りにしない」ために、生徒の発達特性を理解し、認め合う学校づくりを行う。 ・難聴の理解とともに発達特性についての研修を行い、教員の意識を高める。 ・授業スタイルを統一し、教室の環境を統一することが、すべての生徒にとって有益であることを教員が理解し、日々の教育活動を進めていく。		
8	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や保護者と連携した防災教育	危機管理を徹底した学校づくりを行う	安全指導・防災教育を推進し、適切に行動できる生徒を育成する。	・毎月の避難訓練の実施 ・消防署と連携した防災教育の実施 ・防災ノートの活用と防災講話に取り組む。 ・東京マイタイムラインを家庭と連携して活用する。 ・各家庭と情報を共有する。 ・青少年と連携した防災教育に取り組む。 ・全時間の部活動下校を5時30分とする。	・保護者アンケートで、「久留米中学校は生徒の安全に努め、けがや負傷が少なくなった」と感じる」を90%以上とする。 ・保護者アンケートで、「地域と連携した防災訓練を行うことができた」と感じる」を90%以上とする。	4	3	3	・学校事故、体調不良による生徒の対応については、迅速な対応と保護者への連絡を密に徹底して行っていく。	
9	オリンピック・パラリンピックの精神を生かした教育の充実	体験的な活動	児童・生徒の主体的な取組	「多様性と調和」をもとに、「受容・共生・共助」の社会実現に貢献できる生徒を育成する	・パラスポーツの理解とパラアスリートの生き方を学ぶ	・パラアスリートの講演会の実施 ・ポッチャを生徒会主催で全員の体験活動を行う。	・生徒アンケートで「障害者スポーツについて講演会や体験活動を通して理解が深まった」と90%以上とする。	1	1	1	・コロナ禍で体験活動がどこまでできるかわからないが、Zoom等を使いながら工夫して行っていく。	
10												
11	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	教員の健康管理、精神衛生を整える	校務の効率化、仕事の効率的な分担を図る	・起案を丁寧に行うことで会議を短縮する。 ・月1回の定時退勤日を設ける。 ・ICカードによる出退勤の管理で滞在時間の管理を行う。	・教員のアンケートで「働き方改革によって、帰宅時間が早まり過度な休みを取りながら充実した生活ができている」と90%以上とする。	4	3	3	・今年度に関しては、コロナ禍対応もあって先生方の負担も多く、教員アンケートの数値にも表れているように、改善は当面急務であると感じる。 ・今年度は、感染症防止対策のご対応、学校行事の中止での対応、休校におけるカリキュラムの再構築など、ご苦労の連続で、その程度顕著なご対応をありがとうございました。 ・教員の身体的・精神的負担を軽減し、生徒と向き合い合う時間をしっかりと確保するために、引き続き丁寧な議論と取組を継続していただきたい。	・教育活動の早い計画、会議の短縮化、定時退勤週間の設定等により、時間を効率化した業務を推進する。 ・教育活動に充実感がもてる学校とするために、教員間の話し合い、連携を密にすすめていく。